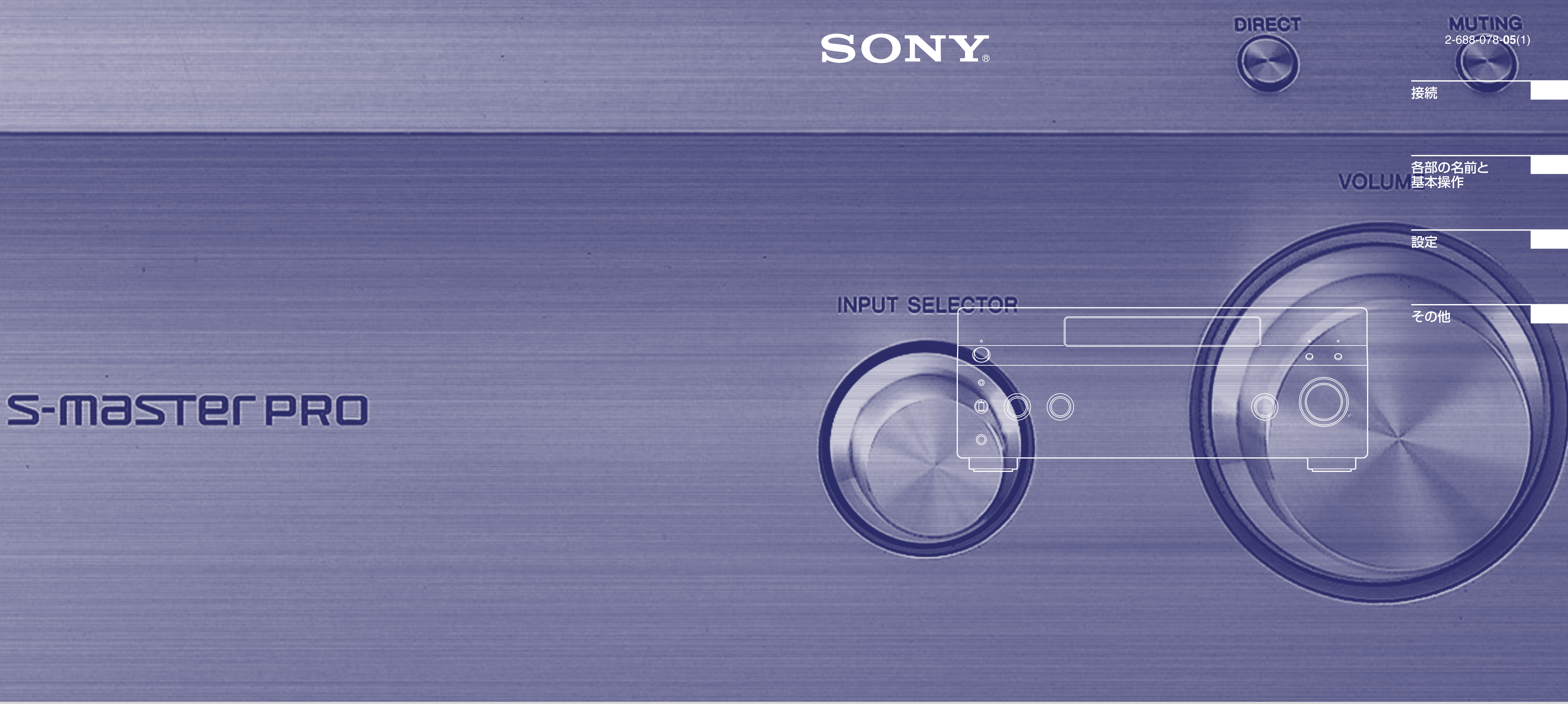
SONY

2-688-078-**05**(1)



インテグレートステレオアンプ

TA-FA1200ES

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口
フリーダイヤル················0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話··· 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル················0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話··· 0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「306」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

* 2 6 8 8 0 7 8 0 5 * (1)

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属のリモコンでの操作のしかたを説明しています。
リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。

本機はドルビー*デジタルデコーダーおよび MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS **デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** Digital Theater Systems, Inc からの実施権に基づき製造されています。
DTS および DTS2.0 は Digital Theater Systems, Inc の商標です。

目次

接続

各部の名前と基本操作

設定

その他

付属品を確認する

次の付属品がそろっていることを確認してください。

- 取扱説明書（本書）(1)
- キャリブレーションマイクロフォン：ECM-AC1（1）
- 電源コード(1)
- リモートコマンダー：RM-AAU010（1）
- RM-AAU010用単3形マンガン乾電池（2）
- ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）

以上の付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

付属の電源コードについて

付属の電源コードは本機専用です。他の電気機器では使用できません。

本機には、オーディオ接続コード、デジタル接続コード、スピーカーコードは付属していません。別途、お買い求めください。

接続時のご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。

スピーカーを接続する

スピーカーのスピーカー端子と本機のSPEAKERS端子を接続します。
別売りのスピーカーコードを使います。

スピーカーコード（別売り）



スピーカー接続時のご注意

左スピーカーはSPEAKERS L端子に、右スピーカーはSPEAKERS R端子に接続します。
スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて＋は＋同士、－は－同士で接続します。スピーカーコードは線やマークのある側を＋と決めておくと、極性を間違えることがありません。

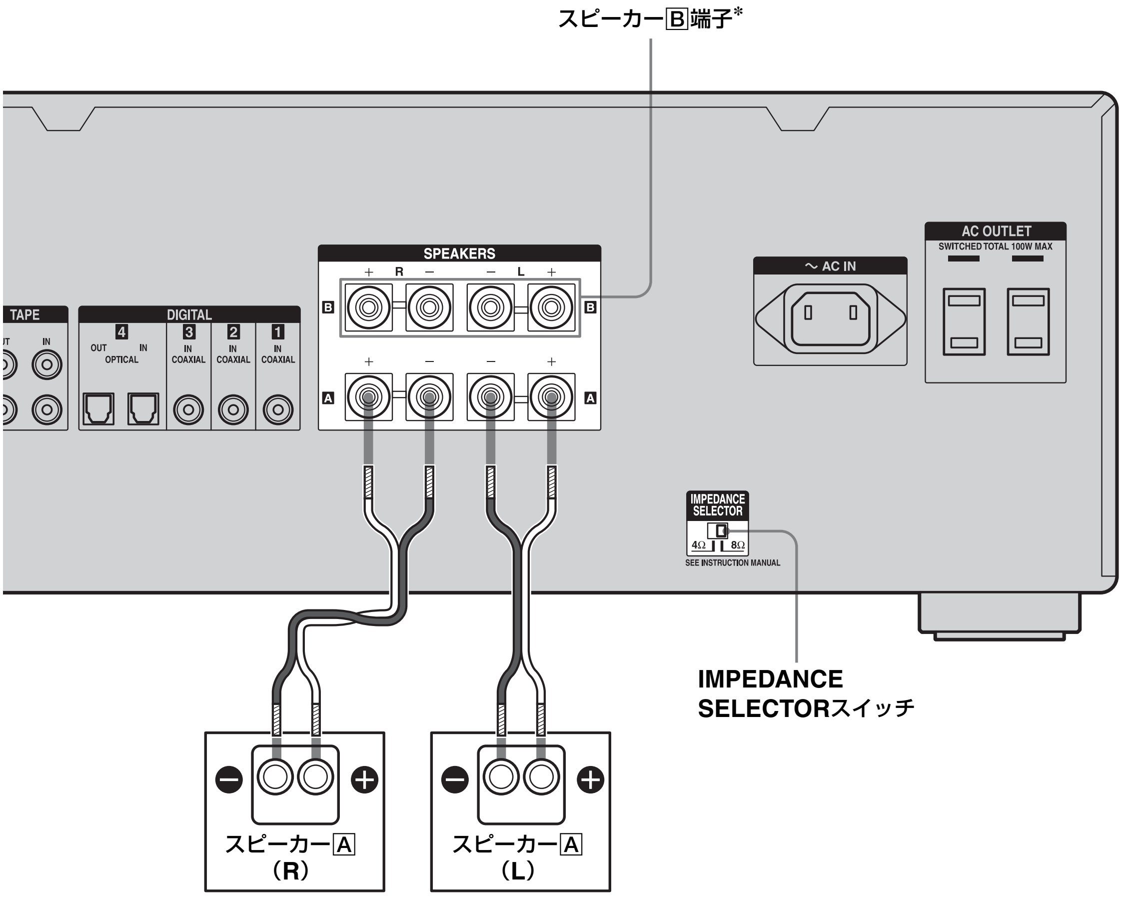
スピーカーインピーダンスの設定について

- IMPEDANCE SELECTORを切り換えるときは、必ず電源を切ってください。
- すべて8Ω以上のスピーカーをつないだ場合は、IMPEDANCE SELECTORスイッチを「8Ω」にしてください。それ以外の場合は「4Ω」にしてください。
- お使いのスピーカーのインピーダンスが不明のときは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください（通常、スピーカー後面にはインピーダンスが表示されています）。

お使いのスピーカーのインピーダンスとIMPEDANCE SELECTORスイッチの設定

SPEAKERS スイッチ	IMPEDANCE SELECTOR スイッチの設定	
	4Ω	8Ω
A または B	4 ～ 16Ω のスピーカー	8 ～ 16Ω のスピーカー
A+B	8 ～ 16Ω のスピーカー	16Ω 以上のスピーカー

- IMPEDANCE SELECTORスイッチを「4Ω」にしている場合、SPEAKERS AとB端子の両方にスピーカーをつないで同時に使うときは、インピーダンスが8Ω以上のスピーカーを使ってください。
- IMPEDANCE SELECTORスイッチを「8Ω」にしている場合、SPEAKERS AとB端子の両方にスピーカーをつないで同時に使うときは、インピーダンスが16Ω以上のスピーカーを使ってください。



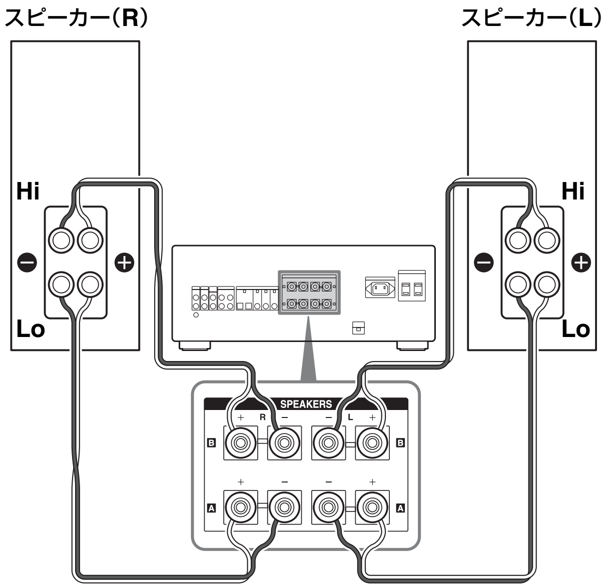
＊追加のスピーカーシステムを使用するときは、SPEAKERS B端子につないでください。使用するスピーカーは本機前面のSPEAKERS スイッチで選べます（10 ページ）。

バイワイヤリング接続する

SPEAKERS AとB端子の両方を使って、バイワイヤリング接続ができます。バイワイヤリング接続をするときは、SPEAKERSスイッチを「A＋B」にしてください。

接続する

スピーカーのLo（またはHi）側を本機のSPEAKERS A端子に、スピーカーのHi（またはLo）側を本機のSPEAKERS B端子につなぎます。



ご注意

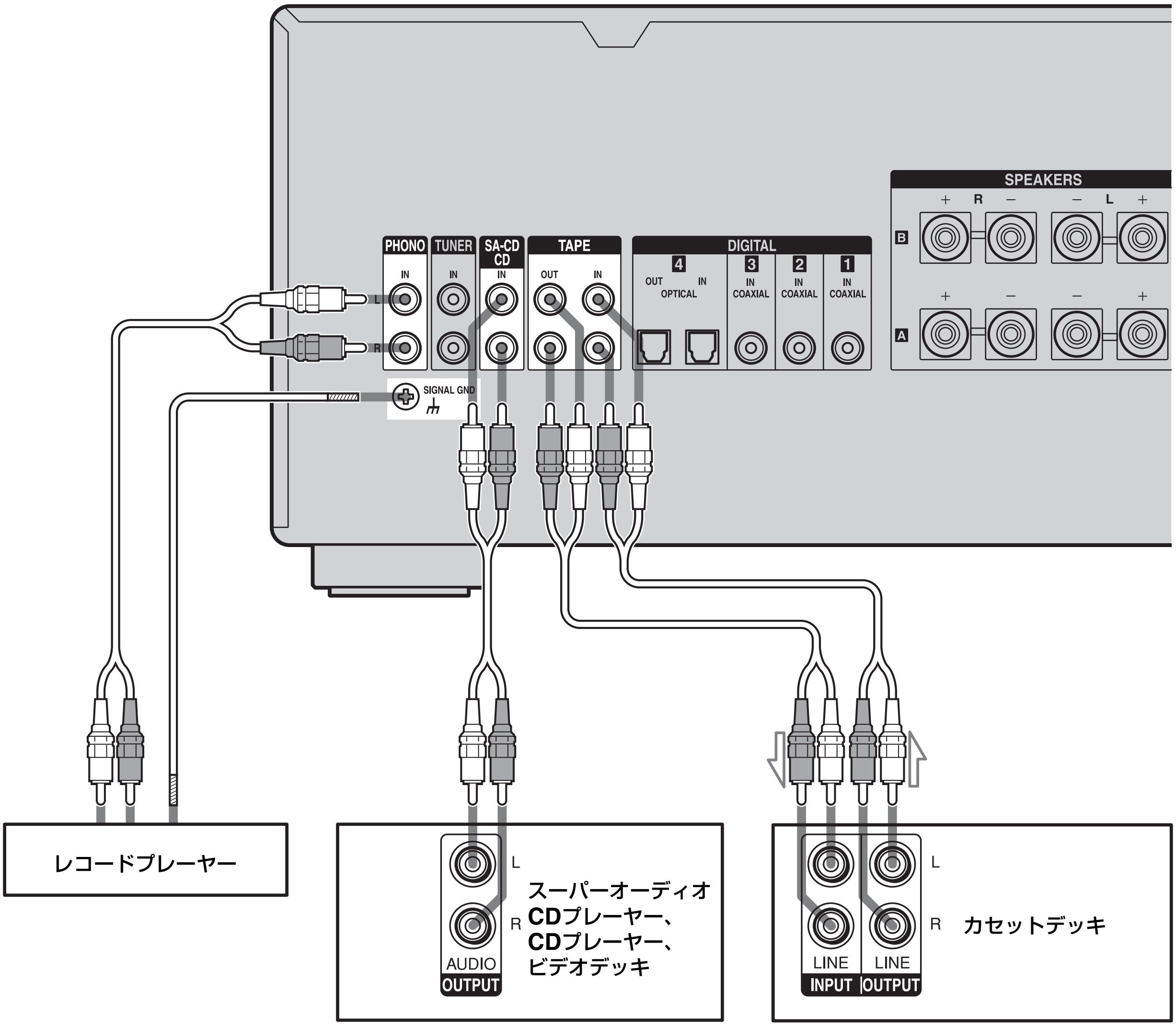
- スピーカーをバイワイヤリング接続するときは、スピーカーに付属されている Hi/Lo のショート金具を必ず外してください。本機の故障の原因となります。
  接続については、スピーカーの取扱説明書もご覧ください。
- バイワイヤリング接続をする場合は、自動音場補正機能の測定前に、接続と SPEAKERS スイッチの設定をしてください。

アナログ音声出力端子のある機器を接続する

スーパーオーディオCDプレーヤーやCDプレーヤーなどのアナログライン出力端子と接続します。
別売りのオーディオ接続コードを使います。
接続コードの白いプラグはL端子へ、赤いプラグはR端子へ接続します。

オーディオ接続コード（別売り）





ご注意

お手持ちのレコードプレーヤーにアース線が付いているときは、ハム音を防ぐために、アース線を本機の ⏚ SIGNAL GND 端子につないでください。

デジタル音声出力端子のある機器を接続する

COAXIAL端子に接続する

同軸デジタル出力端子のある機器と接続します。
COAXIAL端子はDIGITAL 1～DIGITAL 3の3系統があります。
別売りの同軸デジタル接続コードを使います。

同軸デジタル接続コード（別売り）

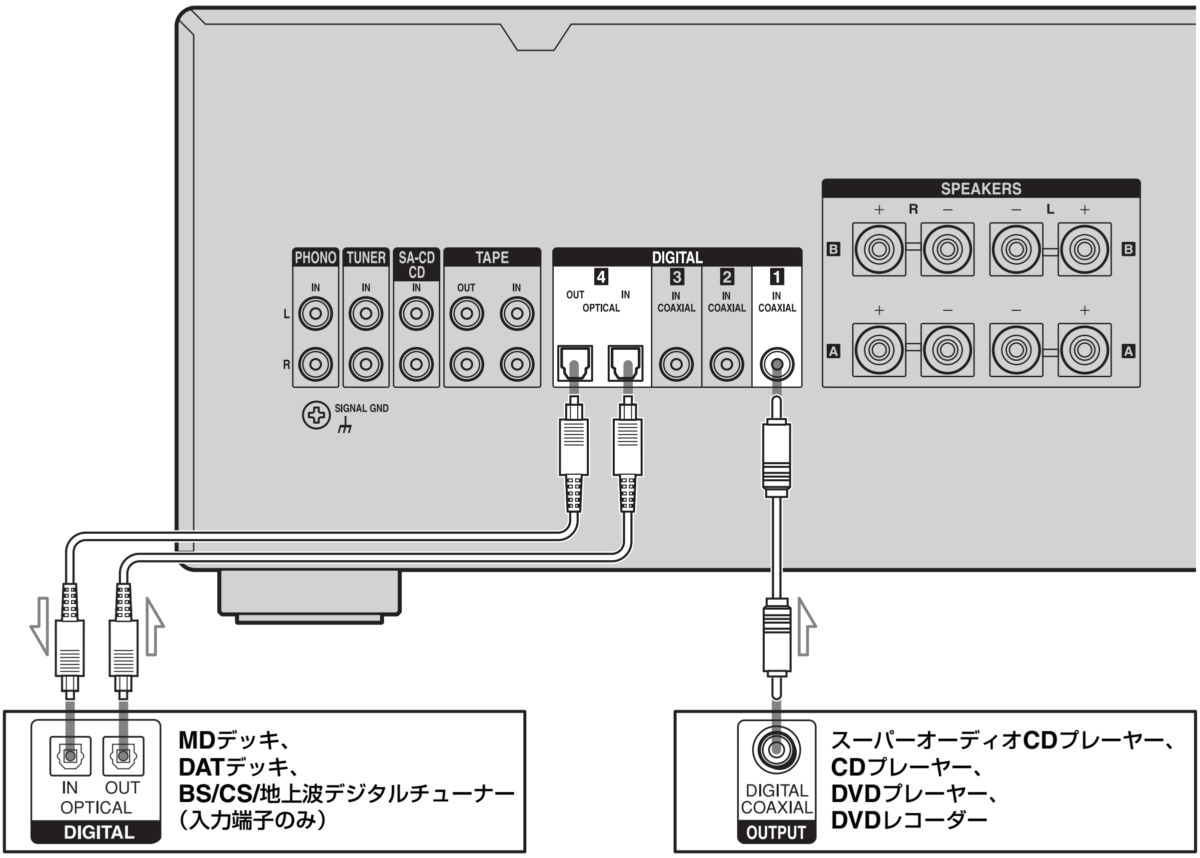


OPTICAL端子に接続する

光デジタル出力端子のある機器と接続します。
別売りの光デジタル接続コードを使います。
OPTICAL端子（DIGITAL 4端子）を使うときは、光デジタル接続コードのプラグをカチッと音がするまでまっすぐに差し込みます。

光デジタル接続コード（別売り）



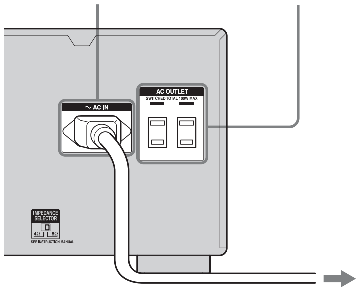


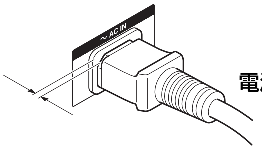
ご注意
DIGITAL 4 OUT 端子には、入力で DIGITAL 1 ～ 3 を選んでいるときに、信号が出力されます。DIGITAL 4 またはアナログ入力を選んだときは、信号は出力されません。

ちょっと一言
本機の DIGITAL 音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。

電源コードを接続する

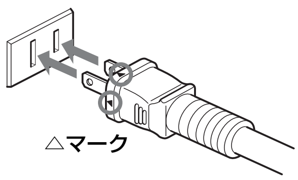
付属の電源コードを本機後面のAC IN（100V）端子につなぎ、電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。
また、お手持ちの機器の電源コードを本機の電源コンセント（AC OUTLET端子）につなぐことができます。





本機後面に電源コードを奥まで差し込んでも、プラグと本機後面の間に数ミリの隙間ができますが、これで正しくつながれています。

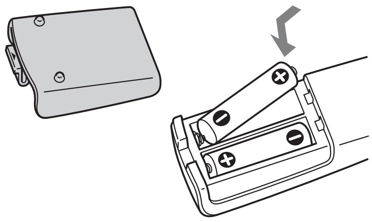
電源コードについて



付属の電源コードには、上の図のようにN極側に△マークがあります。これはよりよい音質にするために、壁のコンセントの差し込み口との極性を合わせるためです。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、長い穴がN極側です。長短がない場合は、極性がわかる市販の検電ドライバーで調べます。

リモコンに電池を入れる

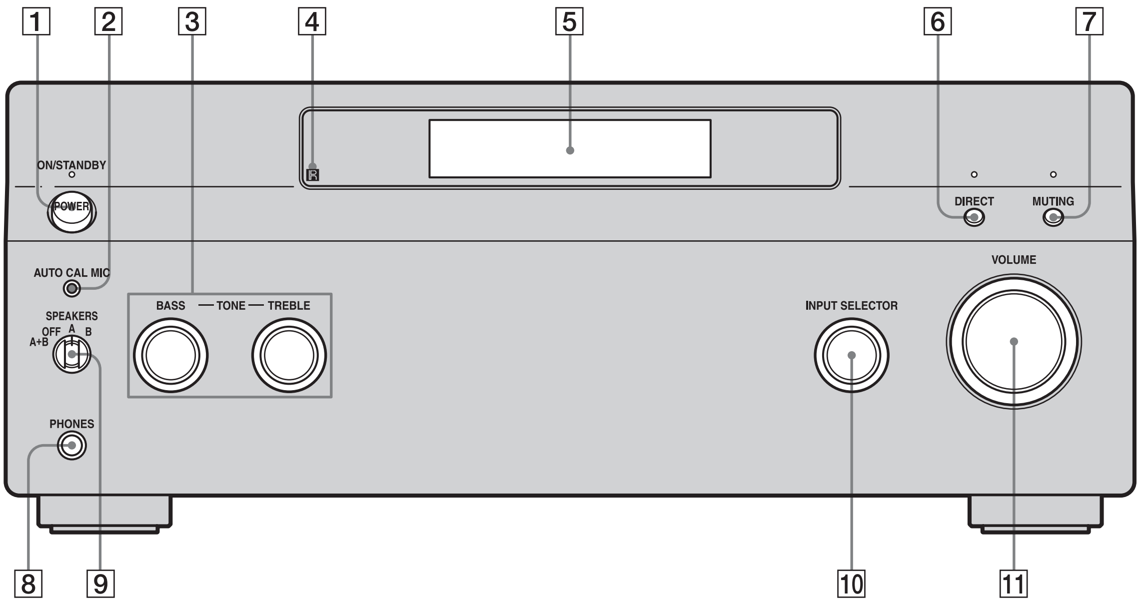
⊕と⊖の向きを合わせて、リモコンに単3形マンガン乾電池（付属）2個を入れます。



ご注意
- 本機後面の電源コンセントは連動（SWITCHED）です。本機の電源が入っているときのみ、つないだ機器に電源を供給できます。
- AC OUTLET 端子につなぐ機器の消費電力の合計が 100W を超えないようにしてください。また、テレビや家電製品（アイロンなど）は、つながないでください。故障の原因になります。
- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  – ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。
  – 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  – 乾電池は充電しないでください。
  – 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  – 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部Ⓡに直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

ちょっと一言
乾電池の残りが少なくなるとリモコンで操作できる範囲が狭くなります。これを目安にして、新しい乾電池に交換してください。

本体前面



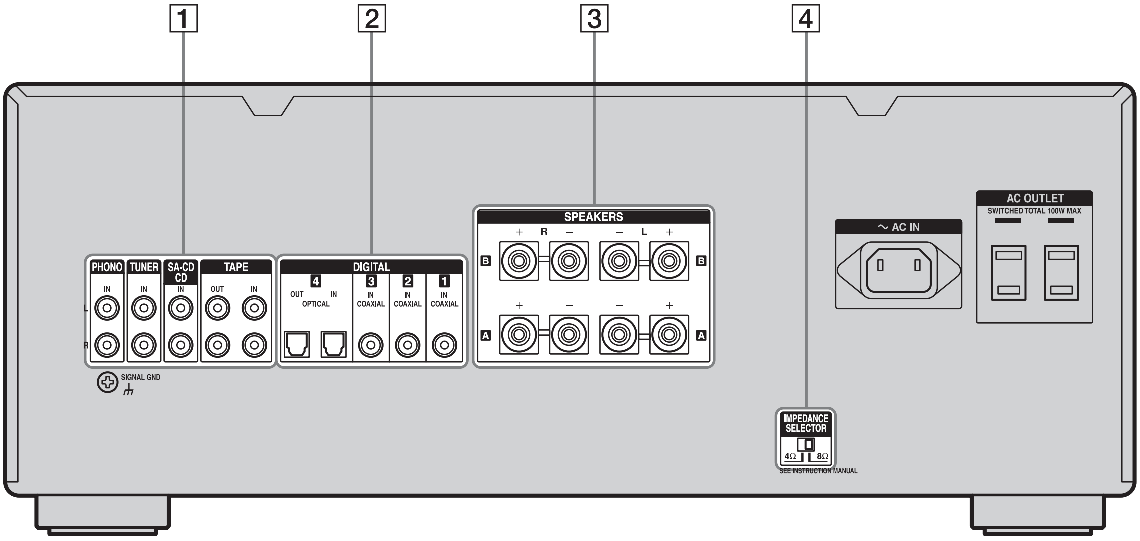
名称	働き
1 POWER	本機（アンプ）の電源を入/切します。
2 AUTO CAL MIC端子	自動音場補正機能で使用するマイクをつなぎます（13ページ）。
3 TONE BASSつまみ/TREBLEつまみ	スピーカーから出力される高音域（TREBLE）と、低音域（BASS）を調節します。レベルは－10 dBから＋10 dBまで調節できます。
4 リモコン受光部	リモコンからの信号を受信します。
5 表示窓	機器の状態や設定など、さまざまな情報を表示します。

名称	働き
6 DIRECT	押すと、TONE機能をバイパスして、音質が向上します。
7 MUTING	音を一時的に消したいときに押します。
8 PHONES端子	ヘッドホンをつなぎます。
9 SPEAKERSスイッチ（OFF/A/B/A+B）	スピーカーのOFF、A、B、A+Bを切り換えます。
10 INPUT SELECTORつまみ	再生する入力ソースを選びます。
11 VOLUMEつまみ	スピーカーの音量を調節します。音量は－∞ dBから＋23 dBまで調節できます。

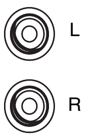
ご注意

- DTS 96/24 信号を再生するときは、DIRECT を「ON」にしてください。DIRECT が「OFF」の状態では、DTS 信号は 48 kHz で再生されます。
- ヘッドホンをつないでいるときは、DTS 96/24 の入力信号は DTS 48 kHz で再生されます。

本体後面



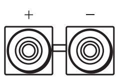
1 音声入出力部

	音声入出力端子	スーパーオーディオCDプレーヤー、カセットデッキ、MD/DATデッキなどをつなぎます（7ページ）。

2 デジタル入出力部

	COAXIAL（同軸）デジタル音声入力端子	DVDプレーヤー、スーパーオーディオCD/CDプレーヤーなどをつなぎます。COAXIALのほうがより高音質です（8ページ）。
	OPTICAL（光）デジタル音声入出力端子	

3 スピーカー出力部

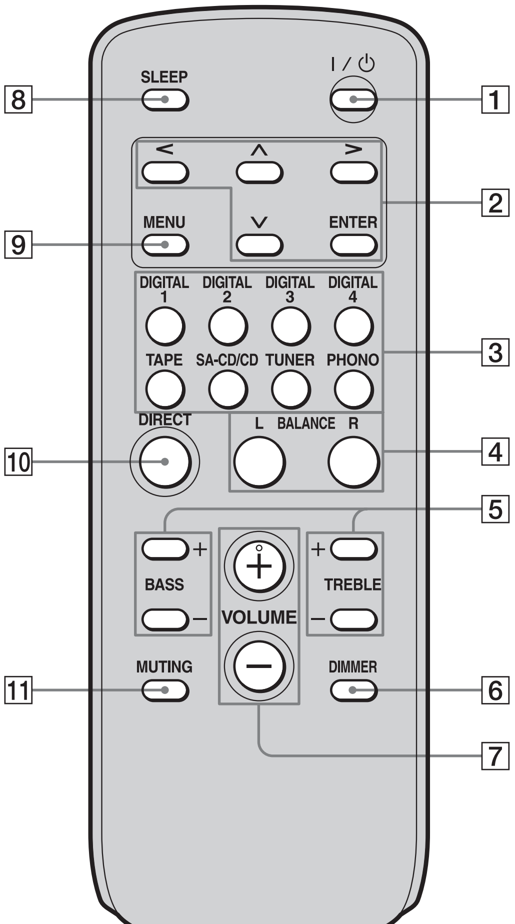
		スピーカーをつなぎます（4ページ）。

4 **IMPEDANCE SELECTORスイッチ**

接続したスピーカーのインピーダンスに合わせて切り換えます（5ページ）。

リモコン

RM-AAU010



名称	働き
1 I/⏻ （電源オン/スタンバイ）	本機の電源を入/切します。
2 ∧/∨/</> ENTER	MENU（9）を押したあと、∧/∨/</>を押して設定を選び、ENTERを押して決定します（16ページ）。
3 **入力切り換え用のボタン**	再生する入力ソースを選びます。入力切り換え用のボタンを押すと、本体の電源が入ります。
4 BALANCE L/R	左右のスピーカーのバランスを調整します。左右それぞれ0 dBから+20 dBまで調整できます。初期値は0 dB（センター）です。
5 BASS/TREBLE +/−	スピーカーから出力される高音域（TREBLE）と、低音域（BASS）を調節します。レベルは−10 dBから+10 dBまで調節できます。
6 DIMMER	表示窓の明るさを調節できます。
7 VOLUME +/−	スピーカーの音量を調節します。音量は−∞ dBから+23 dBまで調節できます。
8 SLEEP	スリープタイマーを使って本機の電源が自動的に切れるまでの時間を設定します。電源がオフになるまでの時間は、30分後から2時間後まで、30分刻みで設定できます。
9 MENU	本機のメニューを表示します（16ページ）。
10 DIRECT	押すと、TONE機能をバイパスして、音質が向上します。
11 MUTING	音を一時的に消したいときに押します。

ご注意

DTS 96/24 信号を再生するときは、DIRECT を「ON」にしてください。DIRECT が「OFF」の状態では、DTS 信号は 48 kHz で再生されます。

自動でスピーカーを設定する（自動音場補正機能）

自動音場補正機能は以下の項目を測定します。

- スピーカーの有無
- スピーカーの極性
- スピーカーの距離
- スピーカーの角度
- スピーカーのレベル
- 周波数特性

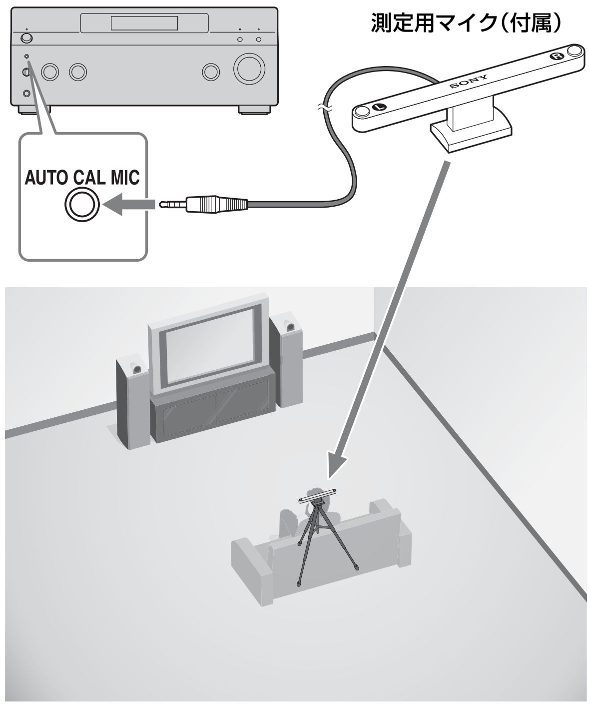
スピーカーレベルの測定結果は、測定結果を保存したあと、BALANCE L/R（12ページ）を押すと確認できます。その他のデータは、表示上では確認できませんが、自動で最適に設定されます。

測定の準備をする

スピーカーを設置、接続してから、測定してください（4ページ）。

測定の前に、以下についてご注意ください。

- AUTO CAL MIC端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。本機やマイクの故障の原因になります。
- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。
- 自動音場測定機能は、ヘッドホンをつないでいるときは働きません。
- 消音機能が働いているときは、解除してください。



1 測定用のマイク（付属）を本機前面のAUTO CAL MIC 端子につなぐ。

2 マイクを設置する。

マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。マイクのLをフロントスピーカー Lに、マイクのRをフロントスピーカー Rに合わせてください。

測定する

1 本機の電源を入れる。

2 MENU を押す。

3 V を押して、「<2-Auto Calibration>」を表示し、ENTER を押す。

4 V を押して、「CAL TYPE」を表示し、ENTER を押す。

つづく

5 ∧/∨ を押して、測定タイプを選び、ENTER を押す。

測定タイプ	説明
ENGINEER	ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
FULL FLAT	各スピーカーの周波数特性を平らにします。

6 ∧ を押して、「AUTO CAL START?」を表示し、ENTER を押して決定する。

5秒後に測定を開始します。5秒から1秒までカウントダウンが表示されます。
この間に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。

7 測定が始まる。

測定時間は約10秒です。測定が終了するまでお待ちください。

測定を中止するには

ボリューム操作、入力ソースの切り換え、本体のSPEAKERSスイッチの切り換え、MUTINGを押す、ヘッドホンの接続で中止されます。

測定結果を確認/保存する

1 測定結果を確認する。

測定が終わると終了音が鳴り、測定結果が表示されます。

測定結果	表示	説明
正常に測定が終了したとき	COMPLETE	手順2へ進んでください。
正常に測定できなかったとき	ERROR CODE XX	以下の「エラーが出たときは」をご覧ください。

2 ∧/∨ をくり返し押して、項目を選び、ENTER を押して決定する。

項目	説明
RETRY	再測定します。
SAVE EXIT	測定した設定を保存し、終了します。
WRN CHECK	測定結果の注意事項を表示します。「「WRN CHECK」を選んだときは」（15ページ）をご覧ください。
EXIT	測定した設定を保存しないで終了します。

エラーが出たときは

エラー原因の対策をして、再測定してください。

エラーの種類	原因と対策
CODE 31	SPEAKERSスイッチがOFFになっています。SPEAKERSスイッチをAまたはBにして、再測定してください。 バイワイヤリング接続をしているときは、SPEAKERSスイッチを「A＋B」にしてください。
CODE 32	どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用のマイクが正しく接続されていることを確認し、再測定してください。接続されている場合は測定用マイクが断線していることが考えられます。
CODE 33	スピーカーが接続されていません。
CODE 34	スピーカーが正しい位置に設置されていません。左右が逆になっているなどが考えられます。スピーカーの位置を確認してください。

ちょっと一言

ダイポールスピーカーなどの特殊なスピーカーをつないでいる場合は、正しく測定できないことがあります。

- **CODE 31**

  SPEAKERS スイッチを A または B にして、「測定する」の手順 2 から再測定する。
  バイワイヤリング接続をしているときは、SPEAKERS スイッチを「A + B」にしてください。

- **CODE 32、33、34**

  1 **各エラー原因の対策をする。**
  2 **ENTER を押す。**
  「RETRY?」と表示されます。
  3 **∧/∨ を押して「YES」を選び、ENTER を押す。**
  「測定する」の手順 7 から測定が再開されます。

「WRN CHECK」を選んだときは

測定結果に注意事項があった場合、詳しい情報を表示します。

ENTER を押し､「測定結果を確認 / 保存する」の手順 1 に戻る。

WARNINGの種類	説明
WARNING 40	測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。 再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
WARNING 41	測定用マイクからの入力が過大です。 これ以上大きな音で測定できません。周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。
WARNING 42	アンプのボリュームが過大です。 これ以上大きな音で測定できません。周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。
NO WARNING	WARNING情報はありません。

自動音場補正機能（Auto Calibration）の設定項目

お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

■AUTO CAL START?

自動音場補正の測定を開始します。

- MEASUREMENT COUNTDOWN
  測定前5秒から 1 秒までカウントダウン表示されます。
- MEASURING TONE
  TONE測定中です。
- MEASURING T.S.P.
  TSP*測定中です。
- COMPLETE
  測定が正常に終了したときに表示されます。
  各項目について詳しくは、「測定結果を確認/保存する」（14ページ）をご覧ください。
- WARNING CODE［　　　:4■］
  測定結果に注意事項があった場合、詳しい情報が表示されます。
  各項目について詳しくは、「測定結果を確認/保存する」（14ページ）をご覧ください。
- NO WARNING
  WARNING情報がなかった場合に表示されます。
- ERROR CODE［　　　:3■］
  測定が正常に終了しなかった場合に表示されます。
  各項目について詳しくは、「測定結果を確認/保存する」（14ページ）をご覧ください。
- RETRY？
  測定の結果エラーだった場合、再測定するか、再測定せずに終了するかを確認します。
- CANCEL
  測定を中断した場合に表示されます。

＊TSP（Time Stretched Pulse）信号
TSP 信号は、短い時間の中に低域から広域までの広い帯域にわたって、高密度にエネルギーが詰められた測定信号です。一般的な室内環境で測定精度を確保するためには、測定信号のエネルギー量が重要であり、TSP を使うことで、効果的に測定を行うことができます。

■CAL TYPE
（測定タイプ）

- <u>ENGINEER</u>
  ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
- FULL FLAT
  各スピーカーの周波数特性を平らにします。

■EQ CURVE EFFECT
（測定したEQカーブの有効、無効）

- <u>OFF</u>
  測定したEQカーブを無効にします。
- ON
  測定したEQカーブを有効にします。測定終了後に自動的にONに設定されます。

ご注意

- 自動音場補正の測定結果を一度も保存していないとき（工場出荷時）は、EQ CURVE EFFECT の項目は選択できません。
- EQ CURVE EFFECT を「ON」に設定しているときに DTS 96/24 信号を再生すると、48kHz で再生されます。DTS 96/24 信号を再生するときは、設定を「OFF」にして、DIRECT（10、12 ページ）を「ON」にしてください。

アンプの設定をする

System Settingsメニューを使って、本機のさまざまな設定ができます。

1 MENU を押す。

2 ∧ を押して、「<1-System Settings>」を表示し、ENTER を押す。

3 ∧/∨ をくり返し押して、設定したい項目を選ぶ。

4 ENTER を押す。

5 ∧/∨ をくり返し押して、パラメーターを選ぶ。

6 ENTER を押して、決定する。

7 その他の項目を設定するときは、手順 3 ～ 6 をくり返す。

一つ上の階層に戻るには

<を押します。

メニューを抜けるには

MENUを押します。

System Settingsメニューの設定項目

お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

■DEC. PRIORITY（デジタル音声入力デコードプライオリティ）

DIGITAL IN端子に入力されるデジタル音声の入力モードを設定できます。

- AUTO
  ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、PCMの音声入力を自動的に切り換えます。
- PCM
  PCM信号を優先して処理します（頭切れを防ぎます）。「AUTO」に設定してCDなどのデジタル音声を入力したときに、再生を始めると音が途切れる場合は「PCM」にしてください。

■DUAL MONO（二重音声モード）

MPEG-2 AACやドルビーデジタルなどの二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。

- MAIN/SUB
  左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。
- MAIN
  主音声のみを再生します。
- SUB
  副音声のみを再生します。
- MAIN+SUB
  主音声と副音声が合成された音声を再生します。

■D.RANGE COMP.（ダイナミックレンジの圧縮）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

- OFF
  ダイナミックレンジの圧縮は行われません。
- STD
  レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。
- MAX
  ダイナミックレンジを極端に狭くします。

■DC PHASE L.（（DC PHASE Linearizer）低域の増強）

低域の位相特性を伝統的なアナログアンプの特性に近づけます。

- OFF
  位相補正を行いません。
- LOW-A、STD-A、HIGH-A、LOW-B、STD-B、HIGH-B
  「LOW」、「STD」、「HIGH」の順に補正が行われる帯域が広がります。「-B」のつくB特性は、より低音感が豊かな位相特性を与えます。

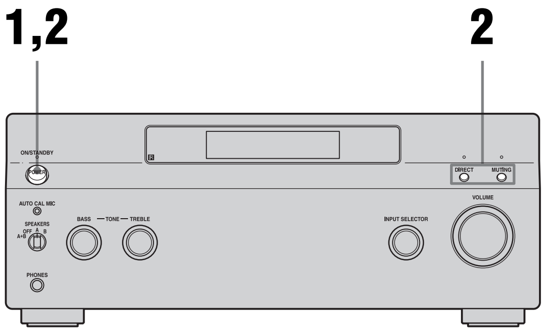
ご注意

表示窓の設定項目が暗く表示されているものは、選んだ設定項目が機能しない、あるいは変更できないことを意味します。

ちょっと一言

「D.RANGE COMP.」では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。「STD」が本来の圧縮値ですが、控えめに感じるときは、「MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターとは異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

設定をお買い上げ時の状態に戻す



1 POWER を押して、本機の電源を切る。

2 DIRECT と MUTING を押したまま、POWER を押して、本機の電源を入れる。

表示窓に「MEMORY CLEARING...」と表示された後、「MEMORY CLEARED!」と表示されます。System Settings、Auto Calibrationの各メニューで設定した内容がお買い上げ時の状態に戻ります。

使用上のご注意

設置場所について

電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。（テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。
特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。
また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。
それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）へお問い合わせください。

音声

症状	原因と対応のしかた
どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。 → 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。 → VOLUMEのレベルが–∞dBになっていないか確認する。 → 本機前面のSPEAKERSスイッチが「OFF」になっていないか確認する（10ページ）。 → MUTINGを押して、消音機能を解除する。 → 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTORつまみ）で正しい入力が選ばれているか確認する。 → ヘッドホンがつながれていないか確認する。 → 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源を入れる。
選んだ機器から音が出ない	→ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 → 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。
片方のスピーカーから音が出ない	→ ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、スピーカーが正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。 → モノラル機器を接続しているときは、L/Rの片方の端子のみに接続していないか確認する。この場合は、モノラルーステレオ変換ケーブル（別売り）を使ってL/R両方の端子に接続してください。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → リモコンのBALANCEを押してバランスパラメーターを調節する。
ハム音またはノイズがひどい	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3m離れているか確認する。 → テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 → ⏚ SIGNAL GNDが正しく接続されているか確認する（レコードプレーヤーを接続している場合のみ）。 → プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
録音ができない	→ 各機器が正しく接続されているか確認する（7、8ページ）。 → 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTORつまみ）で録音したい機器を選ぶ（10、12ページ）。

リモコン

症状	原因と対応のしかた
リモコンで操作できない	→ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。 → リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。 → リモコンの乾電池を交換する。 → リモコンで正しい入力を選んだか確認する。

つづく

エラーメッセージ一覧

本機が正しく動作していないとき、表示窓にチェックコードが表示されます。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下の表をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

チェックコード	原因と対応のしかた
CHECK CODE 11	スピーカー出力に異常な電流が流れています。本機の電源を切り、スピーカーコードの芯線が、本機または他のスピーカーに触れていないか、接続を確認してください。バイワイヤリング接続をしている場合は、スピーカーのHi/Loのショート金具を外していることを確認してください。
CHECK CODE 12	アンプ部が熱くなっています。天板の上がふさがれていませんか。本機の電源を切り、しばらく放置してから再度電源を入れてください。バイワイヤリング接続をしている場合は、スピーカーのHi/Loのショート金具を外していることを確認してください。
CHECK CODE 13	電源部が熱くなっています。天板の上がふさがれていませんか。本機の電源を切り、しばらく放置してから再度電源を入れてください。バイワイヤリング接続をしている場合は、スピーカーのHi/Loのショート金具を外していることを確認してください。
CHECK CODE 14	本機の電源を切り、スピーカーコードの芯線が、本機または他のスピーカーに触れていないか、接続を確認してください。
CHECK CODE 21	本機の電源を切り、スピーカーコードの接続を確認してから再度電源を入れてください。バイワイヤリング接続をしている場合は、スピーカーのHi/Loのショート金具を外していることを確認してください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：TA-FA1200ES
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード：
（8 Ω、JEITA）
150 W ＋ 150 W
（4 Ω、JEITA）
170 W ＋ 170 W

スピーカー適合インピーダンス

4 Ωまたはそれ以上

高調波ひずみ率

0.15 %以下
20 Hz～20 kHz
（8 Ω負荷）
110 W＋110 W
（4 Ω負荷）
120 W＋120 W

周波数特性

パワーアンプブロック：
10 Hz～40 kHz ±3 dB（8 Ω時）

入力（アナログ）

PHONO：
入力感度：2.5 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：86 dB
（Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク）
TUNER、SA-CD/CD、TAPE：
入力感度：150 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：96 dB
（Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク）

出力（アナログ）

TAPE：
出力：150 mV
出力インピーダンス：1 kΩ

入力（デジタル）

DIGITAL 1/2/3：
入力インピーダンス：75 Ω
S/N比：96 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）
DIGITAL 4：
S/N比：96 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）

電源、その他

電源　AC100 V、50/60 Hz
消費電力　110 W
スタンバイ時：0.8 W
最大外形寸法430 × 175 × 430 mm
（幅/高さ/奥行き、最大突起部を含む）
質量　約 14.5 kg
付属品　電源コード（1）
キャリブレーションマイクロフォン：
ECM-AC1（1）
取扱説明書（本書）（1）
リモートコマンダー：RM-AAU010（1）
RM-AAU010用単3形マンガン乾電池
（NS）（2）
ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内
（1）
保証書（1）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 待機時消費電力 0.8W
- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- フルデジタルアンプ S-Master 搭載によりアンプブロックの電力効率を 85% 以上に改善

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

索引